NIE実践報告

1．タイトル：☆地震のゆれを考えよう

2．学校名

新潟県上越市立城西中学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤徹也

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

理科　34人

6．単元（本時の学習課題）名

「大地の変動」　地震のゆれを考えよう

7．目標(狙い)

地震のゆれに関心を持ち、震度を理解する。

8．評価の視点

新聞記事から、「震度6強」が強いゆれであることを理解することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「大地の変動」　全21時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞記事を読み、「中越沖地震」の記事で一番印象に残った見出しを紙に記入する。
②自分が選んだ新聞の見出しを、発表し黒板に貼る。
③黒板に貼られた、34の出来事を見て「震度6強の」ゆれの強さについて考える。

（留意点）
・生徒によっては新聞をしっかり読むことができない生徒がいると思われるので、見出しのみを注目させる。
・34日分の新聞を用意し、日々の出来事がどのように展開していったかを分かりやすくするため、見出しを書いた紙を黒板に時系列に並ぶようにはらせる。
・専門用語で難しいものについては、必要に応じて個別・全体で助言をする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

34日間「中越沖地震」の記事が出ていたことに生徒は驚きを感じていたようである。また、意欲的に新聞記事を読んでいた。

12．成果と課題

見出しのみでいいということで、生徒は中越沖地震に対する関心を高めることができ、主体的に課題に取り組むことができ、中越沖地震に関する見出し記事が黒板に貼られ、計35日間の中越沖地震の起こったことが一目で分かることができた。生徒に記入させた感想を読むと、この情報を見ることで「震度6強」に対するインパクトを伝えることがおおむねでき、授業のねらいは達成できたと考えられる。しかし、また新聞記事の大見出しを読んで意味を理解することができない、漢字を読めない生徒がいる。国語の辞書を準備させる配慮がなかった。